



2006年度 消費収支計算

(2006年4月1日～2007年3月31日)

(単位:千円)

消費収支計算書(予算対比による説明)

収入面で寄付金・事業収入を除く収入(学生生徒等納付金・資産運用収入・雑収入等)が予算額を上回り、とりわけ学生生徒等納付金では当初予算で見込んでいた除籍・退学者の予測数を下回ったこと、資産運用収入では金利水準の上昇に加え、効果的な資金運用を行ったことにより予算額を大きく上回り、帰属収入合計では2億6,430万5千円増加し、169億7,066万3千円となりました。

一方、支出において教育研究経費は、ほぼ予算どおりの決算額となったものの、人件費において、教員人件費が減少し、職員人件費、退職給与引当金繰入額が増加したことにより、1億1,636万6千円増加しました。特に管理経費は、附属中高の校舎改修工事の完了が翌年度にずれ込んだことにより4億2,466万7千円減少しました。その結果、消費支出合計では5億44万6千円減少し、140億3,537万2千円となりました。

基本金組入額は、3億6,776万8千円減少し、19億5,484万7千円となりました。その結果、消費収入合計は、150億1,581万7千円となり、当年度消費収入超過額は11億3,252万円増加し、9億8,044万5千円となりました。

資金収支計算書(予算対比による説明)

収入の部、支出の部合計は、予算対比18億5,883万2千円減少し、246億3,239万3千円となりました。また、資金収支の期末である「次年度繰越支払資金」は、17億4,321万9千円増加し、86億3,095万円となりました。これは、「前年度繰越支払資金」を加えた資金収入が予算対比18億5,883万2千円減少したものの、資金支出(小計)についても、36億205万1千円減少し、収入の減少額より支出の減少額が大きかったことによるものです。

貸借対照表(前年度末決算額対比による説明)

資産の部では、有形固定資産において隣接土地の購入、神山球技場、第2課外活動棟、本館及びすみれ幼稚園耐震補強工事、総合グラウンド屋内野球練習場の完成に伴い計上額は増加したものの、建設仮勘定からの振替(完成に伴う他の固定資産科目への振替)や固定資産の除却による減少額が大きかったことにより、8,767万2千円の増加にとどまりました。その他の固定資産では、債券等の満期償還による再運用に加え、新規に債券を購入したことにより20億2,057万5千円の増加となりました。また、流動資産においては、「現金預金」や「未収入金」が大幅に増え、22億4,800万6千円増加しました。この結果、資産の部合計では、43億5,625万3千円増加し、1,101億9,544万8千円となりました。

負債の部では、退職給与引当金の取り崩し等により2億8,858万円減少したものの、附属中学校・高等学校校舎改修工事資金として新規に借入れを行ったことにより、1億9,626万円増加しました。流動負債では、入学予定者の増加により前受金が増加したことに加え、未払金が大幅に増え、12億2,470万1千円増加となりました。この結果、負債の部合計では、14億2,096万2千円増加し、119億4,746万5千円となりました。

基本金の部では、19億5,484万7千円増加し、943億4,909万3千円となりました。

その結果、「翌年度繰越消費収入超過額」は、9億8,044万5千円増加し、38億9,889万1千円となりました。

2006年度 資金収支計算

(2006年4月1日～2007年3月31日)

(単位:千円)

支出の部				収入の部			
科目	予算	決算	差異	科目	予算	決算	差異
人件費支出	8,245,161	8,241,696	3,465	学生生徒等納付金収入	13,150,937	13,224,793	△ 73,856
教育研究経費支出	3,070,929	3,068,445	2,484	手数料収入	943,899	960,414	△ 16,515
管理経費支出	1,621,615	1,196,881	424,734	寄付金収入	30,000	25,017	4,983
借入金等返済支出	3,878	9,067	△ 5,189	補助金収入	1,308,211	1,318,376	△ 10,165
借入金等返済支出	195,200	195,200	0	資産運用収入	746,629	834,912	△ 88,283
施設関係支出	2,062,739	1,395,127	667,612	資産売却収入	0	524	△ 524
設備関係支出	342,862	308,547	34,315	事業収入	254,205	237,541	16,664
資産運用支出	3,545,956	2,468,368	1,077,588	雑収入	237,064	322,454	△ 85,390
その他の支出	609,981	599,964	10,017	借入金等収入	700,000	700,000	0
予備費	200,000	—	200,000	前受金収入	2,580,352	2,770,815	△ 190,463
資金支出調整勘定	△ 294,827	△ 1,481,852	1,187,025	その他の収入	2,855,631	774,556	2,081,075
				資金収入調整勘定	△ 2,849,600	△ 3,070,906	221,306
支出小計	19,603,494	16,001,443	3,602,051	収入小計	19,957,328	18,098,496	1,858,832
次年度繰越支払資金	6,887,731	8,630,950	△ 1,743,219	前年度繰越支払資金	6,533,897	6,533,897	0
支出の部合計	26,491,225	24,632,393	1,858,832	収入の部合計	26,491,225	24,632,393	1,858,832

2006年度 貸借対照表

(2007年3月31日現在)

(単位:千円)

資産の部				負債及び基本金の部			
科目	本年度末	前年度末	増減	科目	本年度末	前年度末	増減
土地	17,750,554	17,330,791	419,763	長期借入金	665,000	180,160	484,840
建物	20,838,135	20,973,730	△ 135,595	退職給与引当金	6,691,158	6,979,738	△ 288,580
構築物	3,189,130	1,738,312	1,450,818	固定負債計	7,356,158	7,159,898	196,260
教育研究用機器備品	921,556	1,050,219	△ 128,662	短期借入金	215,160	195,200	19,960
その他の機器備品	299,076	309,387	△ 10,311	未払金	1,473,089	359,267	1,113,822
図書	6,008,631	5,847,486	161,145	前受金	2,770,815	2,629,788	141,027
車輛	0	39	△ 39	預り金	132,242	182,351	△ 50,108
建設仮勘定	360,000	2,029,448	△ 1,669,448	流動負債計	4,591,307	3,366,606	1,224,701
著作権	9,450	10,500	△ 1,050	負債の部合計	11,947,465	10,526,503	1,420,962
長期貸付金	34,297	42,134	△ 7,837	第1号基本金	72,109,098	71,494,525	614,573
貸与奨学金	217,124	243,837	△ 26,713	第2号基本金	14,098,973	13,535,939	563,034
有価証券	10,000	10,000	0	第3号基本金	6,960,022	6,182,782	777,239
引当特定資産	51,395,508	49,339,843	2,055,665	第4号基本金	1,181,000	1,181,000	0
差入保証金	6,906	6,396	510	基本金の部合計	94,349,093	92,394,246	1,954,847
固定資産計	101,040,367	98,932,120	2,108,247				
現金預金	8,630,950	6,533,897	2,097,053				
未収入金	441,118	252,510	188,609				
短期貸付金	7,443	10,841	△ 3,398				
貸与奨学金	59,987	100,259	△ 40,271				
前払金	4,263	8,763	△ 4,499				
立替金	11,319	806	10,513				
流動資産計	9,155,081	6,907,075	2,248,006				
合計	110,195,448	105,839,195	4,356,253	翌年度繰越消費収入超過額	3,898,891	2,918,446	980,445
				合計	110,195,448	105,839,195	4,356,253

学生さんの「生の声」を聞いて、とても参考になりました。これからもどんどんご意見、ご質問をお寄せください!



大学の財政に興味がありました。経理の勉強にも役立ちそうです!



※2006年度決算および事業報告の詳細については、本学Webサイトに掲載しておりますので、ご覧ください。

2007年度予算においては、附属中学校・高等学校の開設を契機に、「ブランドデザイン」の一層の推進を最重点課題に掲げ、全学挙げて積極的に取り組んでいきます。学生・保護者の皆様にも、ぜひご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

2006年度は、18歳人口の減少や経済環境の低迷が続くなか、前年度に引き続き、収支均衡を維持した決算となりました。厳しい財政環境にあるものの、「ブランドデザイン」の推進に対応するための必要な資金を確保することができ、良好に財政運営が行えたものと考えています。

総括